

▶和歌集「千年の歌姫たちに」(二)▶

多谷 昇太

—総歌—

「ふりあふげ弥生の空はあてなるぞ式部や小町花と
かはりて」

…衣通郎姫(そとおしのいらつめ)に。着ている着物が透き通って
見えるほど彼女は美しかったという。「我背子が来べき背なりさき
がねの蜘蛛のおこなひ今宵するしも」の一首あり。正室を慮って彼
女は長年月夫を待ち続けた。その正室が亡くなり、今日晴れて又
堂々と夫を迎えられるのだった。それを受けての私の和歌は、ここ
らは自らの気弱さと孤独癖を払うべく詠んだ人恋い歌である(※二
首目は郎女を素直に歌ったもの)。

「破れてもなほ言問はむささかねの蜘蛛手に心みだ
れ散るとも」

「蜘蛛糸でつくりたるにや透き衣隠しもあえぬこ
ろ愛(かな)しも」

…樋口一葉に。彼女は往年その才能ゆえに世間から今式部と呼ばれ
ていた。一方本物の紫式部は主中宮彰子に言祝ぎ歌を献上していた。
では一葉はいつたい何を主と見ていたのだろうか？

「今式部あらば何をか言祝がむ君が代ならぬ恋心こ
そ」

…同右に。ではその恋心とは？

「恋心夫(つま)に我が背にあらなくにものみななべ
て恋しかりとぞ」

…同右に。彼女は生前ママに他家を、他人を訪った。昨今の籠り指
向の世の中で見習うべき姿ではないか。

「何籠る軽げき足もたるやかに送るたよりは現し身
一葉」

…同右に。それを見習った我言上げ歌。

「いたづらに愚痴など云ひて嘆かずはいささ行ひか
さねて錦」

…同右に。小説「うもれ木」のお蝶が恋しければ詠む。

「花と咲きお蝶呼びたし我妹子（わぎもこ）を埋もれ
木ままでは果たさざるらん」

…同右に。その一葉の涅槃を詠む。

「意気込みも銜ひも何も消え失せて一葉落ちたり稔
りの大地に」

…吉原一の名妓、瀬川に。

「花街を情けにぬらす通り雨なくてはあらじ遊女と
知れ」

…河原に立てた小屋の中で亡くなっていた女を食に。「ながらへば
ありつるほどの世の中とおもへば残す言の葉もなし」という名辭世
歌が枕元にあった。

「世的にひとよをただに暮らしけむ才女を食を我
も過ぐしつ」

…同右に。

「去り行けばもはやはあらぬ憂き世かは岩屋の中に
も声は来る」といふ」

…都の貴人宅で女房として出仕していた女性。郷里から夫が偶に都
上りして来たが自分が働いている御邸にやって来ない。どこで何を
しているんだか…「松返り痴ひてあればや三つ栗の中上りも来ぬま
るといふ奴（やつこ）」と罵倒歌。それを狂歌造りした。

「松戻し正しき門に導かむそれが先なる常この男」

…石川郎女（いしかわのいらつめ）に。プレイボーイの噂高い大伴
家持宅に老女に変装して訪い、目通りをえうたが敢無く断られる。
後程「遊士（みやびを）」と我は聞けるを復讐さす我をかへせり遅の
遊士」とからかった。それへ。

「遊士のすぎがままなるそも我か男のみかと早の遊
女（みやびめ）」

…但馬皇女（たじまのひめみこ）に。彼女は政略結婚させられた。
しかし相思相愛の穂積皇子（ほすみのみこ）の元へ夜通い、朝帰り
をする。当時としては考えられない女性の奮行。それを詠う。※「し
がらみ」はここでは「世の掟」を云う。

「弁声肅々朝川をわたるしがらみ撥ねん我は我なり」

…「赤玉は緒さへ光れど白玉の君が装し貴（とふと）くありけり」
なる古代の名歌を「財宝の」赤玉には魂きを魅了されるけど、（同
じ財宝でも）白玉のごときあなたの真心 私に示す誠意が私にはな
おいつそう尊く思えるのです」と私は意訳した（本当は全然違っ
たらしい）。

昨今のお金ファーストの世の中から見れば実に見上げた姫の心
とつづづく思い、これを以て古今東西すべての和歌の一番歌と見做
し、こう詠んだ。

「千年（ちとせ）こへ日の本照らせ一番歌 姫の心の
永遠（とは）に輝け」

…現役の中宮時代の永福院（正真正銘日本一の美人！）が詠んだ
歌「花の上にしばしうつろふたづく日いるともなしに影きえにけ
り」に。

「日の本の一なる桜御身さへ嘆き心に花散らすとは」

…最後に我々の世代の歌姫だった（もつとも彼女は俳句でしたが）
女優の夏目雅子さんに。

「一息にいのち吹き消し逝きしひと春とは云はぬ花
冷えしまく」

「青旗のこは誰のこゑに花嵐いかにこの世を断ちぬ
べきとぞ」



：今一つサービス。和歌ではなくて歌謡の歌誌を御披露して終わります。もちろん夏目雅子さんをイメージして作詞。どなたかこれに作曲してくれませんか？

「花散り姫」

(一)

♪ 桜花 君をともしつれ 散りぬべみ
♪ せめて見たや 見たや
♪ 上りて舞ひ奉れ 清水に
♪ これぞ今際の 花舞台

(二)

♪ 行く水の 流れて二度は 還るまじ
♪ よしやさらば さらば
♪ 川面に落ちて雅なれ 加茂川の
♪ 落ちてくくらむ 紅色に

(三)

♪ 雪紛う 花も泣くかや 風に舞ひ
♪ 舞へや狂へ 狂へ
♪ 女情念 たけのまま
♪ いかはこの世を 断ちぬべき

